

# 学生の主体性を引き出す 学び場づくりをどう進めたか —事業開発コースでの経験に基づいて—



《 Contents 》

九州産業大学の紹介／事業開発コースのフレーム  
専門家から専門人材へ／教育手法の転換／今後の見通し

九州産業大学経営学部 間間 理 (ききま おさむ)

kikima@ip.kyusan-u.ac.jp

# 大学の紹介

# 九州産業大学の紹介

- キャンパス：福岡市東区松香台
- 学部：経済・商・経営・国際文化・芸術・工・情報科学
- 学生数：10,504人
  - 経営：1,752人（各年募集定員 400名）
- ここ20年ほどで受験生数は大幅減
- AO・推薦入学者比率の拡大が進行中

# **取り組みの概要**

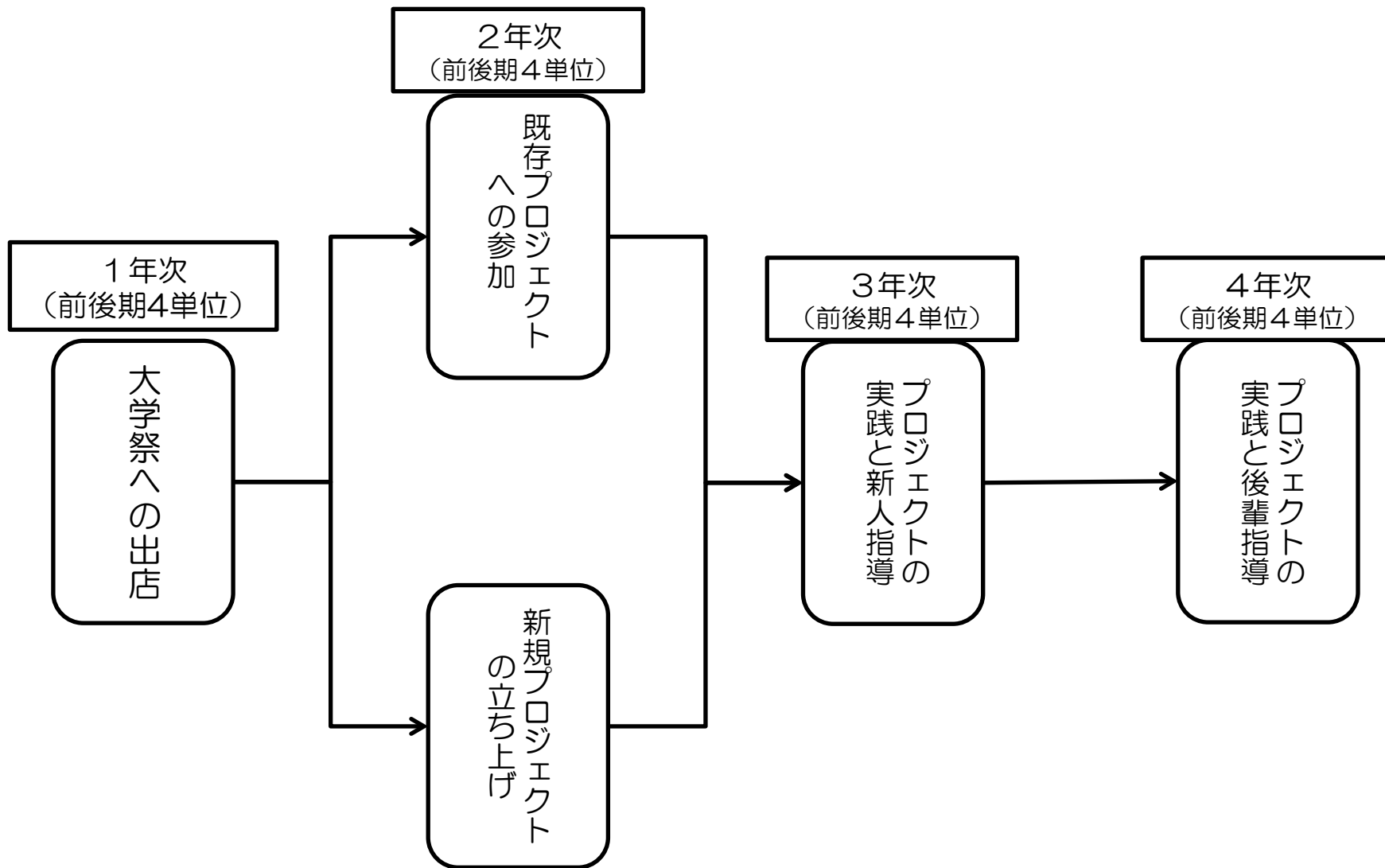
**－事業開発コースのフレーム**

# 事業開発コースのフレーム①

- 九州産業大学経営学部産業経営学科のコース（他に会計コース）
  - コース卒業は卒業要件ではない
- 専門科目の演習科目として設置
- 1年前期から4年後期まで設置
  - 最大32単位まで習得可能
- 各学年の科目を同一教室で実施

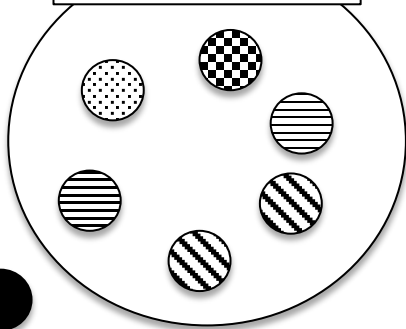
# 事業開発コースのフレーム②

- 学生たちがプロジェクトを企画、実行する
  - プロジェクトのテーマには原則として制約なし
  - 同学年のみでも、異学年混成でチームを組んでもよい
- 担当教員を複数配置し、アドバイザー&メンターとして関わる

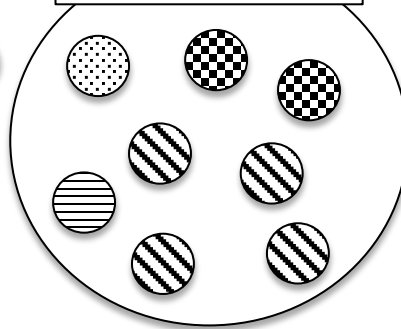


# 事業開発コース

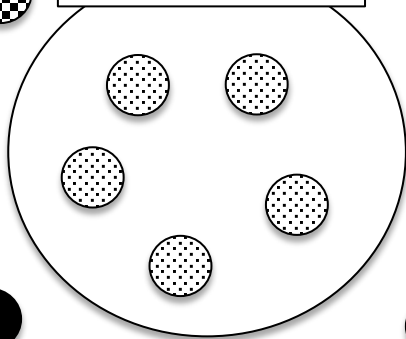
## プロジェクトA



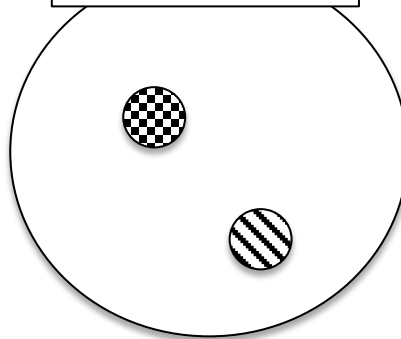
## プロジェクトB



## プロジェクトC



## プロジェクトD



1年生 2年生 3年生 4年生 教員







# 事業開発コースのフレーム③

- 演習内では全体でのワークと、個別プロジェクトでのワークを半分半分ぐらいで織り交ぜて進める
- 記録をこまめに取らせ、振り返りを徹底
  - 個々人の振り返り（毎週）
  - プロジェクトごとの活動記録（毎週・毎月）
  - 企画書・企画プレゼン（イベントごと）
  - 報告書・報告プレゼン（イベントごと）

日付	曜日	3限	4限	5限
2015/04/10	金	ガイダンス・面接	交流ワーク	リーダー会議
2015/04/17	金	学文祭チーム分け～会議	コーチング基礎	
2015/04/24	金	プレゼンテーション	学文祭チーム会議	
2015/04/25	土	新入生オリエンテーション		
2015/05/01	金	プロジェクト勉強会	学文祭チーム会議	リーダー会議
2015/05/08	金	コーチング研修	コーチング研修	
2015/05/15	金	創立記念日（学友会総会）のため休み		
2015/05/22	金	学文祭企画プレゼン	全体会議	
2015/05/29	金	学文祭直前準備	学文祭直前準備	
2015/05/31	日	学文祭		
2015/06/05	金	学文祭速報会	学文祭チーム会議	
2015/06/12	金	学文祭報告プレゼン	学文祭報告プレゼン	リーダー会議
2015/06/19	金	コーチング研修	コーチング研修	
2015/06/26	金	プロジェクト・ワーク	プロジェクト・ワーク	
2015/07/03	金	プロジェクト紹介	チーム編成会議	リーダー会議
2015/07/10	金	梨花女子大交流企画	プロジェクト会議	
2015/07/17	金	コーチング研修	コーチング研修	
2015/07/24	金	オープンキャンパス打ち合わせ・全体会議	歩き方・姿勢研修	
2015/07/25	土	オープンキャンパス準備		
2015/07/26	日	オープンキャンパス		
2015/08/06	木	前期報告プレゼン・納会		

(参考)2015前期のスケジュール ※5限のリーダー会議は正課外活動。

# **取り組みの経緯**

- 専門家から専門人材へ（個人の視点）**
- 教育手法の転換（組織の視点）**

# 専門家から専門人材へ

- 新しい体験を続けざまにした
- 勉強会で仲間ができていった
- 良質な情報が危機感を煽った

# 新しい体験を続けざまにした

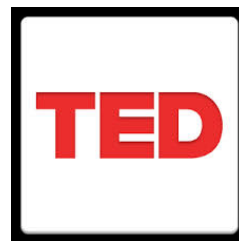
- 「先生」扱いに慣れた自分。いつの間にか、知らないことを出せない自分になっていました。
- 運よく行けた一年間の国外研修で、ゼロスタートのチャレンジに耐性ができ、その大切さを感じました。
- 帰国後も常にチャレンジしようと思いがけるようになりました。

# 勉強会で仲間ができていった

- 学外の**社会人との勉強会**・講演会・セミナーに参加。FacebookなどのSNSでゆるい交流が始まりました。
- 学内では同じ学外イベントで会った**職員と自主勉強会**を開始。学内でも徐々に交流が広がりました。
- **学内外に仲間がいたことで実現**したプロジェクトは少なからず。

# 良質な情報が危機感を煽った

- SNSの仲間から、世界の教育や社会の未来・キャリア問題に関する**良質な情報を共有**してもらい、危機感・使命感を煽られ続けました。
- 一人で新聞・ニュースだけを見ていても危機感は喚起されなかったと感じます。



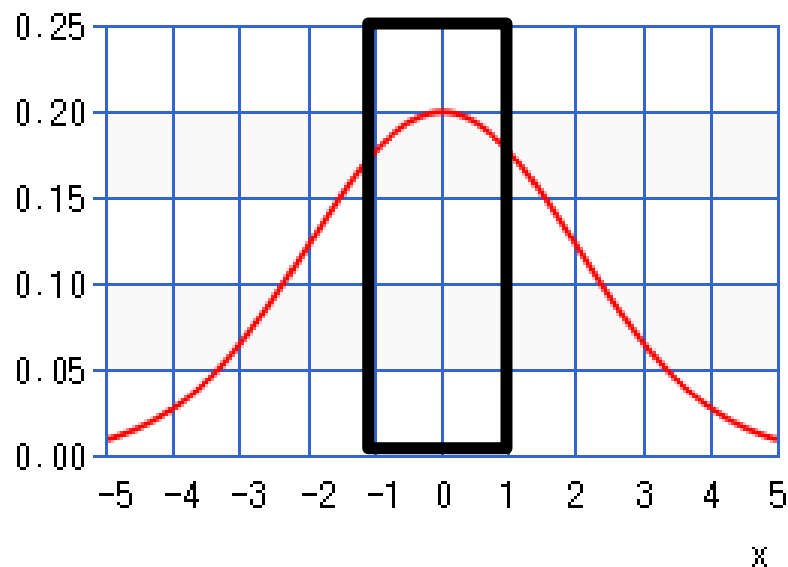
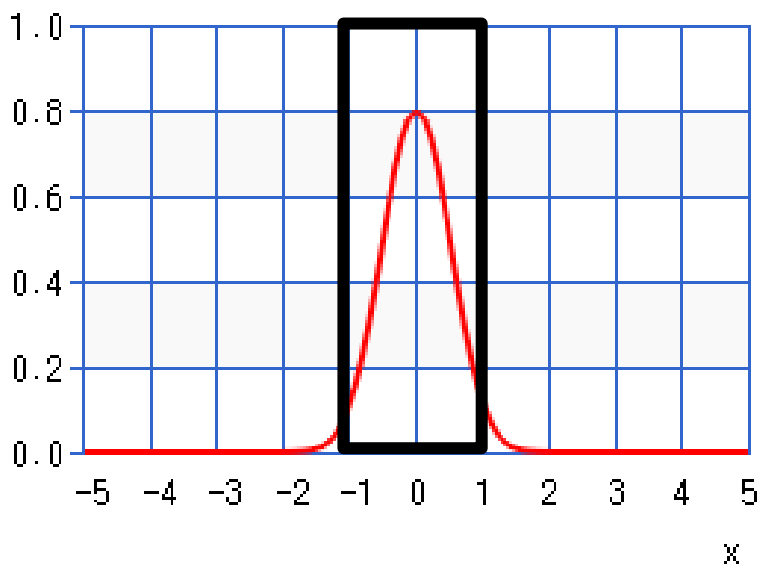


# 教育手法の転換

- クラス分割から自己管理へ
- ピーク集中からピーク分散へ
- 縦割り担当から共同担当へ

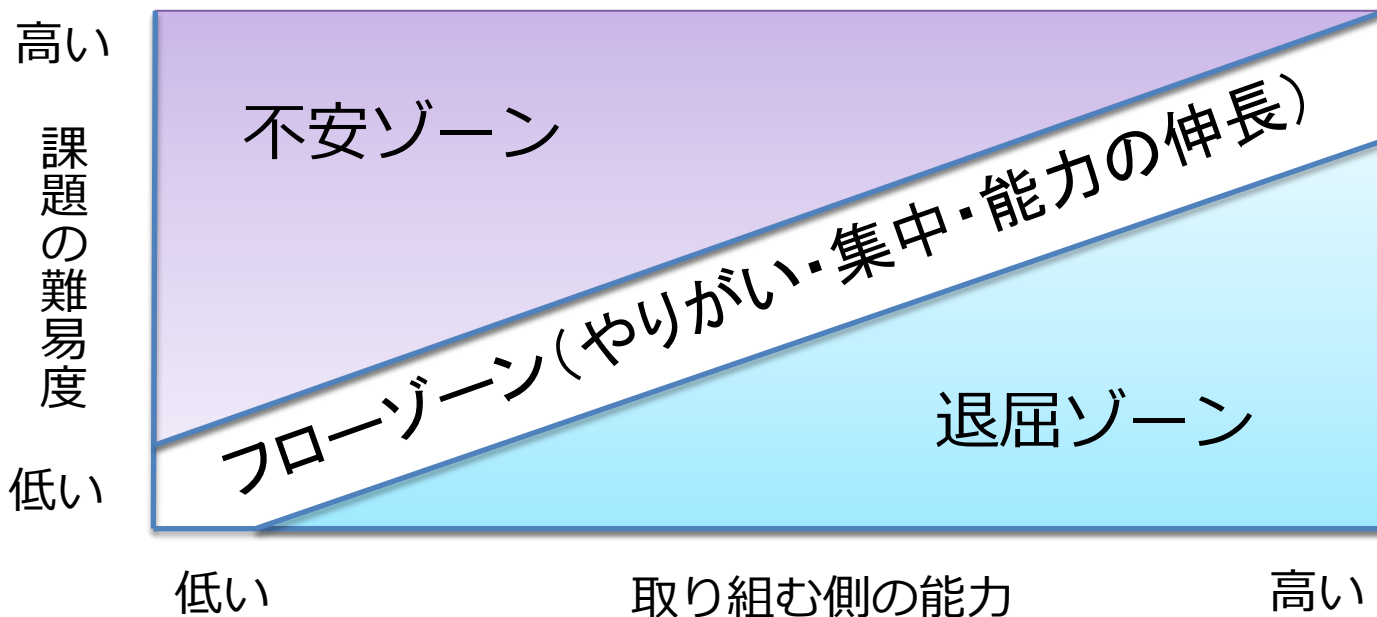
# クラス分割ではなく自己管理へ

- AO・推薦入学者比率が高まることで学生の多様性が広がり、授業内容の難易度調整は限界に。
- クラス分割も自尊心を損ねる。



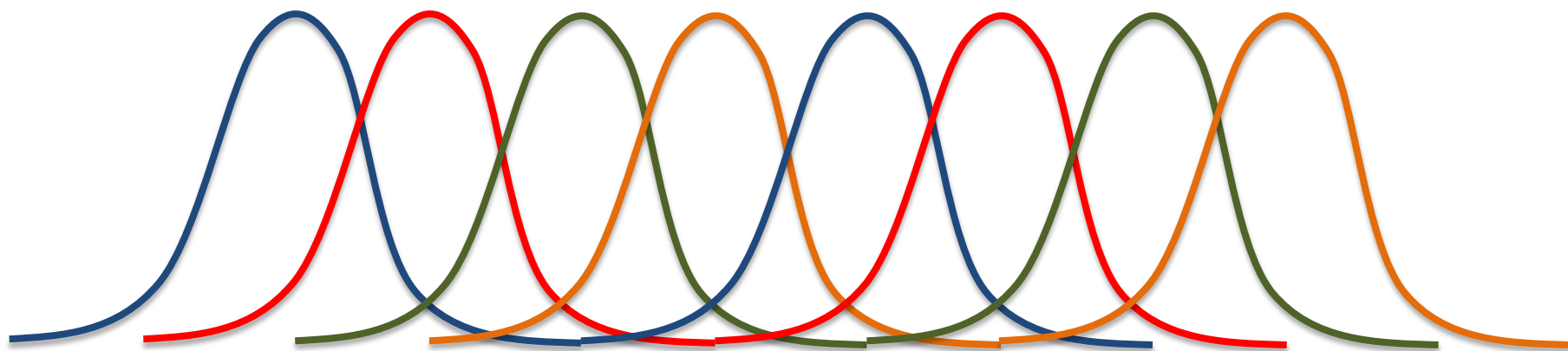
# フロー理論とPBL

- 学力・個性の多様性を認めつつも、フロー状態を作り出す点において、Project Based Learningは優れる。



# ピーク集中からピーク分散へ

- 相互に学び・助け合う余裕ができる。
- 失敗・リスタートを許容しやすい。
- 学内外連携の開始調整をしやすい。
- コース全体の認知度が高まる。



# 縦割り担当から共同担当へ

- 森を観つつ木を見ることが出来る。
- 学生が相談相手を選ぶことができ、教員の専門性も発揮しやすい。
- 教員相互に指導手法を学びやすい。
- 状況に応じて主導権をパスしあえる。
- 同じ構造で学生も巻き込める。



# 取り組みの課題

# 今後の見通し：内容充実

- プロジェクト活動と専門講義の連結
  - プロジェクト内勉強会を奨励中。
  - 専門講義のオンデマンド化は有力な解決策。
- プロジェクト活動評価の適切さ確保
  - 学生の内省する力を高めることで評価の適切さも向上する～コーチングの積極的導入。

# 今後の見通し：機会の拡大

- 学内外の他の演習科目への、手法の移転や共同実施を推進
  - コース担当者が独立し新たな演習を展開中。そこから学ぶことは実に多い。
- 大学職員との連携強化
  - 職員ならではのプロジェクトの機会・テーマ提供に大きな価値。特に「大学を良くする」ことに絡むテーマには、学生たちもコミットしやすい。